

## あ と が き

今から40年ほど前、人類が初めて月面に降りた。この時に宇宙飛行士が浮くように歩く様子が放送されたのを今でも覚えている。人類を月面に送ったロケットはあの有名なアポロ11号。

当時、使われたロケットはサターン型と呼ばれ、三段のエンジンから成っていた。第一段エンジンは、燃焼時間は僅かで終了するが、ロケットが大地を離れる際にとつもなく大きな推力を発生し、その後は加速し二段、三段へとつなげ、最終的な目標であった月面着陸という偉業のために極めて重要な役割を担った。

本校の校内研究では、今年度はいわば第一段エンジンを大きく噴射させ、徐々にではあるが目的地に向けて着実に歩んだ一年だったといえる。これまでの研究をもとにして研究主題を何にするのか、研究方法はどうするのか、また、児童の実態はどうなっているのかといったいわば離陸時に時間を費やした。このような基礎があったからこそ、その後の取り組みの一貫性が保たれた。また、各自の実践意欲も高まった。さらに、充実した全体研究授業にもつなげることができた。

学問に王道なしという。今年は、改めて一つ一つの積み重ね、日々の努力の大切さを感じた。

来年度は、順調な第一エンジンでの飛行を受けて、第二段エンジンで校内研究の着陸地点である、「児童にかえるもの」に向けて飛行していくことになる。三段跳びに例えるならばステップする年にあたるので大きな飛躍を遂げたいと願う。

結びに、本校の研究推進に係わり貴重且つ具体的視点からご指導いただきました北杜市教育委員会学校総務課指導主事の清水徳生先生をはじめ関係機関の皆様方には御礼並びに今後のご指導をお願い申し上げ、あとがきとします。

教頭 田中 隆